

表紙のことば

北海高等学校に建つ 「わだつみ」の像

坂 東 克 彦

なげけるか

いかれるか

はたもだせるか

きけ

はてしなき

わだつみのこえ

十一月二日北海道出張の折、札幌の豊平川のほとりにある高校野球の名門校北海高等学校を訪れた。

同校は明治十八年、北海英語学校として創立され、北海中学校、北海高等学校として今日に至っている。この間、野呂栄太郎、黒川利雄、稲村隆一など幾多の人材を世に

されていない。次年度以降の構想としては、①通年四単位の授業とし、学生間の討論の時間を増やしたい、②講師陣の討論会を公開する、③受講学生で委員会を組織し、授業の進め方への要望、新聞の発行、コンパの企画(?)等を運営させたいなどといった点を考えている。

(やまざき けん 新潟大学教育学部・生理学)

の感想が多い。学生の意見としては、教員が一方的にしゃべらないでほしい、もっと討論の時間を取ってほしい、他人の意見を聞きたい、色々な角度(人文・社会・自然科学)からの話が聞けるのでよい、今まで習っていた事が表面的だった事がわかった、自分も何かをしなくてはいけないのではと思った等、様々な感想が寄せられている。

現在、授業が修了していないので最終的な評価はな

送り出した。現校長幸村欣司氏は本県間瀬の出身である。

先日、同期の盟友浜口武人君から昭和六〇年、北海高等学校創立百周年を記念して同校出身の著名な剛刻家本郷新氏の不巧の名作「わだつみのこえ」像が母校に迎えられ、いま生徒通用門前に立っていると聞き、心を踊らせて同校を訪問した。

ななかまど、かえでなど美しい紅葉のなかで、風雪に耐え試験を乗り越えてきた「わだつみ」の像は、いま私たちに何を語りかけているのだろうか。